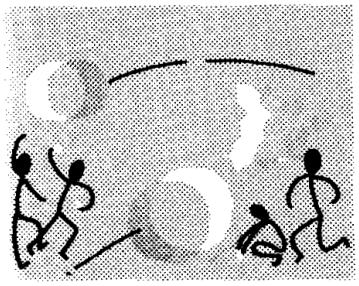
光一中だより

教育目標
○自主的に学び、考え、実行する人
○心豊かで、ともに助け合う人
○健康で、勤労を愛する人

練馬区立光が丘第一中学校
校　長　　豊田　貴志
令和５年度　第１０号
令和６年２月１３日

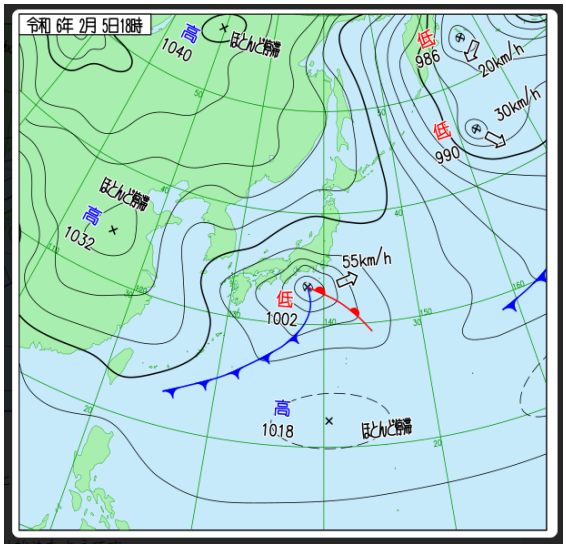
「南岸（なんがん）低気圧と大雪」

校長　豊田　貴志



２月５日（月）は東京都内で大雪が予想されました。天気予報どおりお昼過ぎから雪が降り始め、下校時刻には学校周辺もかなりの積雪がありました。自転車で通勤している私としては帰り道についての見込みが甘かったこともあり、自転車を押しながら帰宅することになりました。また我が家の家族の一人はひばりが丘駅から出るバスが大雪の影響で止まり、ひばりが丘駅から徒歩で１時間半をかけて自宅まで帰ってきました。

もともと関東地方では大雪になることは数年に一度くらいしかないため、そもそもの雪対策は講じられていません。そのため一度大雪になるとあらゆる面で影響が出るのはある程度は仕方のないことだと言えそうです。皆さんは５日の月曜日の帰りは困らなかったでしょうか。きっと皆さんのご家族の方が、我が家がそうであったように帰宅時間に苦労なさったのではないかと推察します。



今回の大雪は、本州の南岸を低気圧が進む「南岸低気圧」の影響によるものです。東京をふくむ関東平野に大雪をもたらすもののほとんどは、南岸低気圧によるものです。一般的に南岸低気圧の中心が陸地に近いほど雨になりやすく、遠いほど雪になりやすいといわれています。入試本番のシーズンを迎えますが、入試当日に雪の影響で公共交通機関が止まることも可能性がないわけではないことを考えると、代替の交通機関や行き方を考えておく必要もリスク管理と言えそうです。

大雪は生活に支障をきたす反面、日本の水資源としてなくてはならないものです。そういった意味では表裏一体、よい面も悪い面も持ち合わせている自然現象ですし、こういった自然現象の前では私たち人類のできることは限られていることを痛感します。